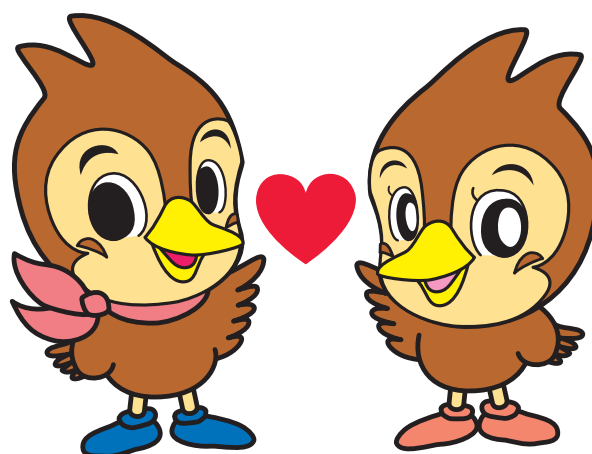


基本構想

第1章 2018年(平成30年)の大刀洗

第2章 施策の大綱

第3章 自立に向けた行財政運営





第 1 節 大刀洗町の将来像

本町は、これまで緑が豊かな田園都市として成長し、農業を基幹産業と位置づけ、北部地域では都市圏などへの交通アクセスの利便性を活かし、企業誘致による工業地域の形成や住宅地として発展してきました。平成の大合併により周辺市町村が合併を選択する中、平成16年(2004年)6月の住民投票により、合併せずに「自立する」道を選択しました。

しかし、少子・高齢化による人口減少、地方分権による行財政改革の時代を迎え、本町のような小規模自治体を取り巻く環境は厳しさを増しています。

地方の自主性が問われる今こそ、町が生き残るためには、これまでの行政主導型から住民が自ら理念とビジョンを持った住民自治型*へと転換し、「住民参画のまちづくり」を進めていくことが重要です。

本町では、生き残る力をつけ、地域自治の実現を目指すために、住民、地域、行政がそれぞれの役割を分担し、「**自らが守り育てる豊かで活力あるたちあらい**」を目指します。

この目標には、世界に誇れる大刀洗町の歴史、文化、豊かな緑、田園が広がる自然を次代へ引き継ぐため、一人ひとりが知恵と力を出し合い、守り、伝え、創り、人を育てる思いがこめられています。



2018年 将来像（平成30年）

自らが守り育てる 豊かで 活力 ある たちあらい

豊かな自然が息づく環境づくり
健やかに個性が輝く人づくり
次代に伝える地域づくり
自立に向けた行財政運営



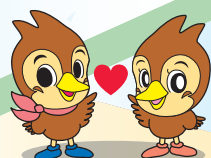
2009年
第4次総合計画
スタート

自立へ



1999年
第3次
総合計画

1988年
第2次
総合計画



1972年
第1次
総合計画



施策の大綱

心豊かな未来を拓くまちづくり
自然を愛する住みよい生活空間のまちづくり
健康で安心して暮らせる明るいまちづくり
個性と潤いのある文化のまちづくり
農業と商工業が調和した活力あるまちづくり
地域力を発信するまちづくり
自立可能な町政への転換

